



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 9 月 12 日 (木)

発行 館長 加藤 智 一

ああ勘違い

ヤマブキ→浅黄色→アサギマダラ→浅葱色

我が家の庭は、極力手を掛けず自然体のままの季節感を大事にしています（嘘です 面倒なだけ）。そんな訳で、野草が自由気ままにのび放題!! 今年の新顔は、小ぶりでピンク色の朝顔です。去年は間違いなく見なかった。なにやら葉っぱの形も初期段階と、開花時期では違うような? そういえばこやつ、毎朝通勤の道すがら、霞城公園で見かける奴です。野鳥が持ち込んだのか、このところの異常気象のせいで、埋土種子が発芽を始めたのか知らんけど。と、傍らを見れば、ヤマブキが花を咲かせているではないか。ヤマブキ? ヤマブキの見頃は4月下旬から5月上旬のはず。そう確かにそのころ咲いておりました。なぜ9月も中ごろになって花が咲くのか? 我が家の庭だけの突然変異? かと思って家の者に聞いたところ毎年我が家では、2回咲くのだそうで、バラと同じじゃん!! とところで、ヤマブキ色とアサギマダラの浅葱色って違うの? と尋ねたところ、お前はバカかときたもんだ。浅黄色ならともかく浅黄色と浅葱色は全く別物。大体「葱」だよ「ネギ」。と禅問答のような返し方をされたので、少し頭にきています。そういえば黄色いアサギマダラを見たことないな? 去年の8月初め、月山登山に行ったおり、リフトから見下ろす景色の中で見かけたアサギマダラは葱色でもなかったけどな? 今度まじかで見える機会があれば、浅葱色のマダラ模様を見てみたいものです。

ということで、せっかくでありますので、アサギマダラについて、ちょっとした蘊蓄を語らせていただきますと、皆さんご承知のとおり、アサギマダラと言え、長距離移動をする（渡りをする）蝶としてあまりに有名。近年、蝶にそれぞれマークをつけ



て放ち、移動を調べるマーキング調査が行われるようになり、少しずつではありますが長距離移動の実態もわかってきました。それによりますます、夏に本土に

いたアサギマダラの多くが九州や南西諸島や台湾など温暖な地域へと移動していることが明らかになっています。1000km 以上の距離を移動する個体もザラにいて、中には1日で200km もの距離を移動した個体も見つかっているようです。

そしてびっくりなのは、この蝶の幼虫時代。いかにも毒持ってそうでしょう。そうなのです。幼虫はガガイモ科の植物(キジョラン、イケマなど)を食草としています。これらの食草にはアルカロイドという毒素が含まれていますが、アサギマダラはこのアルカロイドを自身の体へ取り込むことで毒をもち、敵から身を守っています。さらに、アサギマダラのオスは、フジバカマという植物によく集まる姿が観察されます。フジバカマにも、ピロリジジンアルカロイドと呼ばれる毒性のある物質が含まれています。ところがこの物質はオスにとって重要なようで、この物質を取り込まなければ性フェロモンが分泌できないと考えられています。性フェロモンは異性を惹きつけるのに必要な物質ですので、これが分泌できないと子孫を残せません。また、フジバカマは、葉に桜餅を思わせるような芳香があるのも特徴で、この香り成分はクマリンといって、桜の葉と同じものです。フジバカマの香りから桜餅を連想する日本人も多いのだとか。昔の日本の貴族たちは乾燥させたフジバカマの葉を着物に忍ばせて香りを身に纏ったという話もあります。アサギマダラが人々に人気があるのも、その姿にどこことなく気品を感じるからかもしれません。

